

非発がんリスク：不揃いな安全率

不確実性係数のかけ算では、想定される安全率が一定しない。

前提：不確実性係数は、もともと、その物質の「絶対安全」を保証しているのではなく、「過去の経験から、かなり高い確率で大丈夫だ」というもの。

たとえば、
一つの係数「10」が、99%安全を保証（1%は見逃し）

二つの係数（種間外挿と個人差など）の場合、
「 10×10 」が見逃す確率は、0.01%となる